

竹田展と大分近郊探訪

日時 十月十三日

見学地 竹田展（芸術会館）——元町石仏——国分寺

跡——高瀬石仏——大友頼泰の墓——長曾我

部信親の墓——大友義鑑の墓——佐伯

竹田展のすばらしさについては、前掲の清田副会長の文に尽きるので省略し、他の見学地について略記する。

竹田展に尽きぬ名残りを惜しみながらバスの人となる。

国史跡元町石仏は国道一〇号線のすぐ傍らにある。元町薬師とも呼ばれ、高さ三、八二尺（台座とともに）の薬師如来石仏は、覆屋の中央に結跏趺坐（けっかふたざ）している。顔や胸・手の一部が欠損しているのが惜しまれる。百斉から来朝した日羅の作と伝えられ、欠損部分に釘跡が見える。地石に鉄釘を打ち、釘の頭で粘土を保つようにして仕上げた珍しい工法という。

大名行列で名高い賀来神社を過ぎると、やがてそれとわかる大きな森が見える。国史跡豊後国分寺跡である。

広い境内、巨木の森、各所に見られる礎石に当時をしのぶ。靈山北麓伽藍迫（がらんざと）の国史跡高瀬石仏は、石窟の中にある。胎藏界大日如来像を中心に五体の石仏が刻まれている。左端の深沙大将の石仏は珍しいという。

高瀬石仏と程遠くない常楽寺の近く、道端に大友氏第三代頼泰の墓がある。本誌第一三〇号に古藤田氏の精しい記事があるので、今一度読み返してはしい。

帰路戸次川原古戦場を見おろす山崎の丘に、長曾我部信親の墓を弔う。勢に乘じ豊後を占領しようとする宗麟父子、島津義久の軍に対し、豊後を死守しようとする長曾我部と、秀吉の命によりはるばる四国から来援した長曾我部元親・信親父子の連合軍とが対じしたが、軍監仙石秀久の無謀な作戦のため長曾我部信親以下七百余名が戦死するという悲劇を生んだ。信親の墓を取り巻くように信親をたたえる碑や一族の記念碑、石仏などが建立され、きれいな公園になっている。

野津町の大友義鑑（あき）の墓は、雑草の中はっんと立っている。それでも誰が供えたのか枯れかかっているが花が供えてある。あまりにも淋しく哀れを催す。（義鑑のことは前号一三一号古藤田氏の文に精しい）（塩月）